

2022年7月28日

行動障害支援を行っていた「くるめさるく」の事件について

一般社団法人日本自閉症協会
会長 市川 宏伸

「療育」と称して障害のある中学生に監禁・暴行等をしたとして、福岡市 NPO 法人「さるく」の理事長および他 1 名が福岡県警によって逮捕されました。

報道によると、本事件は長崎県時津町の自宅で寝ていた当時中学生の男性（14）の手足を縛るなどして身体を拘束し「暴れたら殴るぞ」などと脅迫して、頭部に袋のようなものをかぶせて複数回殴り、「くるめさるく」等に車で連行して同日午後 7 時半ごろまで監禁したとされています。またその間、過去の暴言などを認めさせる文書の作成を、同生徒を脅して強要したとされています。なお、「くるめさるく」は県内外から重度の知的障害や自閉スペクトラム症がある人を積極的に受け入れ、激しい自傷・他害や物を壊すなど「強度行動障害」のある人の生活改善を実現すると PR していたとのことでした。

この強度行動障害のある子どもへの短期集中的な介入により「強度行動障害の問題が解決する」という容疑者が称する「訪問セラピー」は、親御さんとの私的な契約で行われていたもので、通常の福祉サービスとは異なる点に本事件の特徴があると思われまます。

日本自閉症協会（以下当協会）に寄せられるお問い合わせ・ご相談からも、強度行動障害を持つ子どもを受け入れる施設や医療機関は全国的にも非常に少なく、藁にもすがる思いで受け入れ先を探している親御さんは少なくありません。本件は、強度行動障害を持つ人に対する残虐極まりない虐待であると同時に、子どもの強度行動障害に悩む親御さんの弱みに付け込んだ卑劣極まりない犯罪です。

強度行動障害の背景に自閉スペクトラム症などの発達障害がある事例が多いことはよく知られています。強度行動障害児の療育や支援は研究されており、問題の行動には何らかの原因や本人なりの理由があり、関わり方や環境、医療で確実に軽減します。一方、当協会の経験では、「短期で強度行動障害が治る」「どんなに難しい行動障害を持つお子さんでも預ければうまくいく」等の謳い文句を掲げる事業者は問題が多いと認識しています。

お悩みの方、また、少しでも対応がおかしいと感じた際は、ぜひ地元の児童相談所、発達障害者支援センターや基幹相談支援センター（福祉）にご相談ください。

当協会は、強度行動障害のある子どもや親御さんが抱えている困りごとの根本には、適切な支援を提供できる福祉・医療・教育機関等の社会的資源や福祉の人材などが不足していると考え、早急に対応すべき課題として認識し、厚労省を含め関係個所とも連携をしながら、強度行動障害への支援体制の早急な構築に向けて、取り組んで参ります。

また、引き続きすべての自閉スペクトラム症の人が虐待を受けずに、安全に地域で暮らしているよう全力で取り組む所存です。